



花借巻

多 12  
1544  
7









一 黄鐘と云ハ 亥三月の調子 ありくよと云  
時の南也 又膀胱と云ハ心の膀胱なり とき  
ありしあちと云ひより 火性ときをさうこめ  
舌通てうー也

一 平調子と云ハ 秋三月乃調子也 ありくよ  
と云ハ時の西也 又膀胱と云ハ肺膀胱也 とき  
志ろー 味ろーき也 金性ときをさうこめ  
と云ハ通調子也

一 盤渉と云ハ 冬三月乃調子也 ありくよと云  
時の北也 又膀胱と云ハ腎膀胱也 とき  
くろー 味ハ酸なり 火性ときをさうこめ  
耳と通てうーなり

一 絃と云ハ 土用乃調子なり ありくよ  
と云ハ時の中央也 五臓と云ハ脾の膀胱也  
とき黄なり 味ろあまー 土性ときをさうこめ  
口と通調子也 又土用乃調子なり ありくよと云  
ときくの子細乃細くあり 委いばまきれ  
す急よりききるとなり 国月も土用とれあり  
調子也 又土用乃調子なり ありくよと云

一 越と云ハ 断吟なり  
一 平調子と云ハ 務絶下無調也  
一 双調子と云ハ 鳧鏡なり  
一 黄鐘と云ハ 鸞鏡なり  
一 盤渉と云ハ 孫仙上無調也



十二天の調子の事

一一越十一 新吟十二 平調正 勝絶二

下五調三 双調四 鳧鐘五 黄鐘六

鸞鐘七 盤涉八 林仙九 上五調十

時の調子此事

子 呂 盤涉 陽冬 定 呂律

丑 林仙 陰

卯 呂律 鸞鐘陽

辰 呂律 双調陰 春と定

巳 律 鳧鐘陽

午 律 上五調陰

黄鐘陽 反定

未 呂 一越調陰 土用定

申 律呂 新吟陽

酉 律呂 平調陰 秋定

戌 呂 下五調陽

亥 呂 勝絶陰



一断 平 勝 下双调 黄鸞 盤亦上

平调 秋也 白 ひろか

一越 申 西酉 戌 下双调

赤 未 亥 勝絶 醜冬一

苦也

午 黄鸞 南 中央 一越 土 月 水 盤 涉 子 中 央

黑也

白 中 巳

丑 亦 仙

交也

辰

东 卯

刀

鸞 陸

上 巳

双调 春也 青 醜 同 出

右 方 の く 八 调 子 ぬ べ

耳 辛 酸 苦 鹹 五 味 又 多 又 時 又 季 々 如 此

一雨 双调 一波 盤涉

一川 盤涉 一竹 盤涉

一木 双调 一石 盤涉

一鳥 盤涉 一袴 黄鸞

一雷 盤涉 一魚 平调

一風 平调 一土 盤调

一双调 教心の 调子也

一黄鸞 脩竹の 调子也

一平调 菩提の 调子也

一盤涉 涅槃乃 调子也



一一越

才便の 調子也

一又調子を

宮高角微羽の五音

一宮をいふはあてていひきをほきら

一高の乃とよあてていきをほきら

一角の口子あてていきをほきら

一春りもちゆる也

一微香のいきをあてて調子なりあ人も盤なり

一羽の右の人ういひよてきんときあてあへ

一あてていひきい黄鐘也交もちゆる也

一越りり二調子下を吟するもたゆみ

一吟し次第くは何もいこあもあきてき調

一祝云乃調子の事

呂ハ志うきんもりのいけいきなり生体と云



律いうれへなわひきつるゝきせしむるゝかひ  
いきとつふ也

一 双調の黄鐘一振は二調子の呂の音とていふ  
志うきんよもちゆる也

一 双調上無調子を父とて下無調子を母とて天  
地陽陰和合のてうと是を云双調いあふ  
とく乃かふともむ也うらゆるへは詠形威乾の  
てうとあふきうり

一 五音相通の事

あいうへを

かきくけこ

さしすせう

たちつてそ

なにぬねの

はひふへか

まみむめも

やいゆえよ

うりるれろ

わぬうぶわ



一 喉内

あ	い	う	え	を
か	き	く	け	こ
や	い	ゆ	え	よ

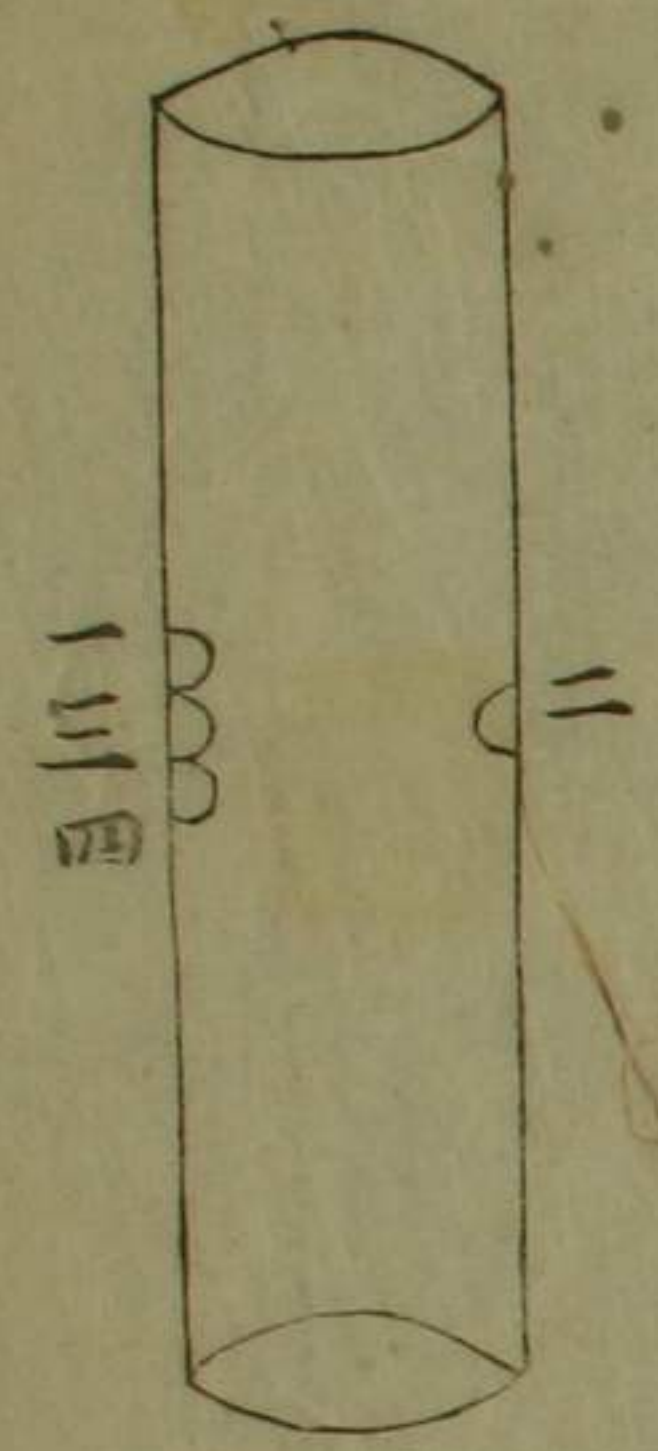
一 唇

は	ひ	ふ	へ	か
ま	み	む	め	も
わ	わ	う	え	お

一 舌

さ	し	す	せ	そ
た	ち	つ	て	と
な	に	ぬ	ね	の
り	り	る	れ	ろ

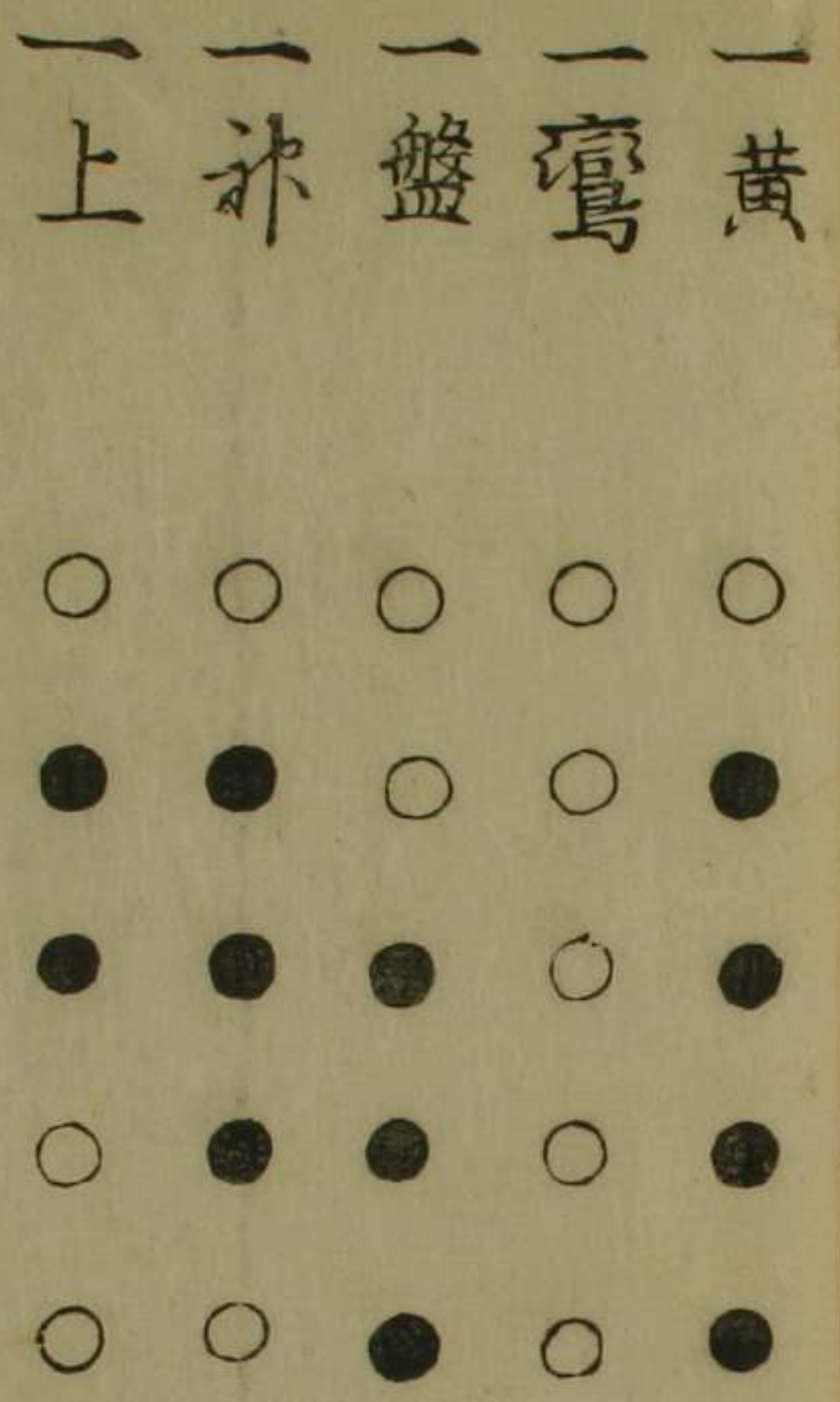
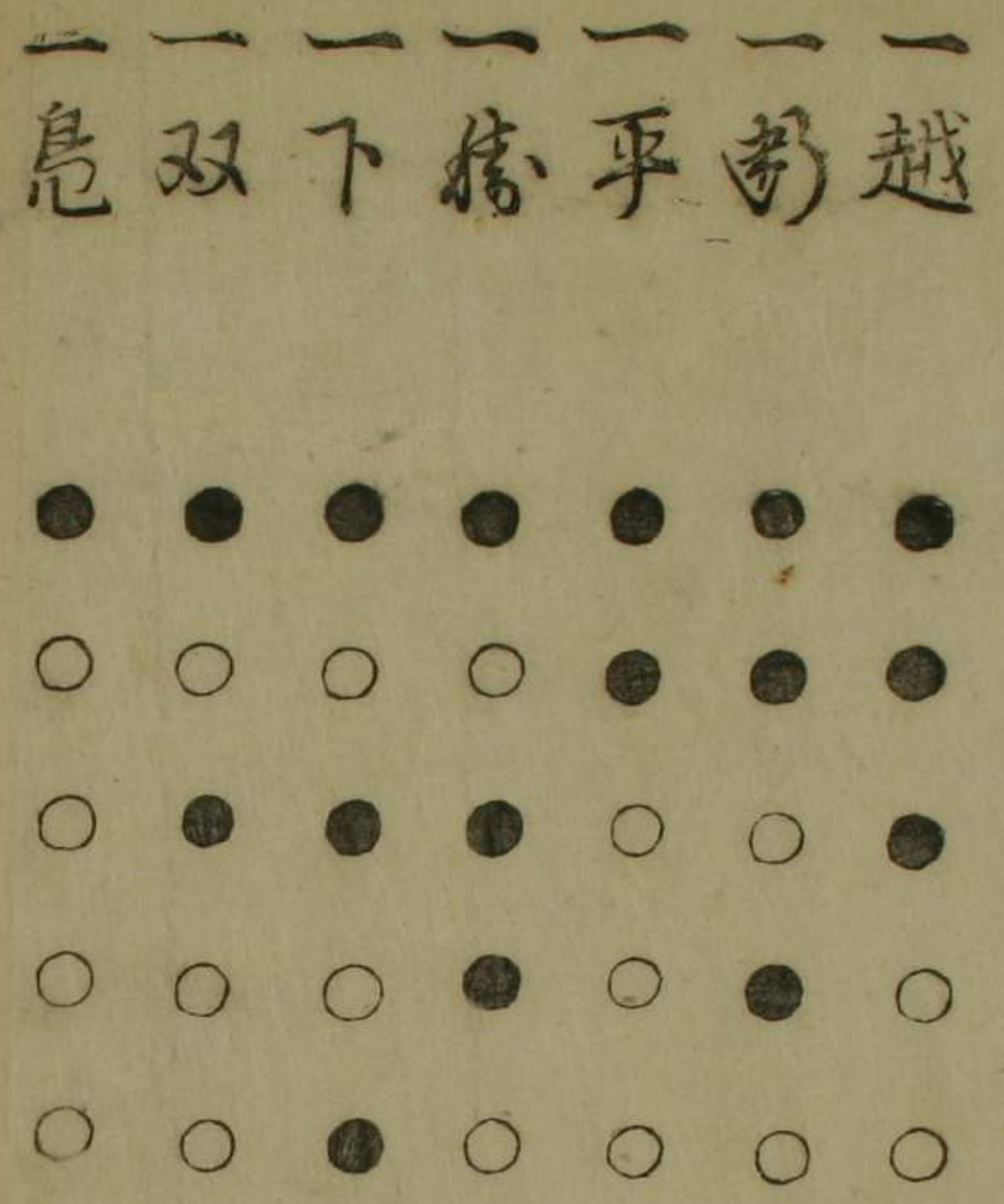
一 四 完 吹 横 の 子



134



三四二三新四完寒平  
 一下二双一二鳧三黄一二鸞  
 四盤一四祓仙二四上



一座あゝゝゝひ乃調子の事小座あゝゝゝ  
 平調よりゝゝひいた双調よりあゝゝゝひ  
 とむらなり

ひろまゝてい双調より黄濤よりゝゝひあきて  
 とむらなりもーやーちうくあゝゝゝ十番目  
 ちとまは盤濤よりあけて可然るさうりあゝゝ  
 是の座のさゝき乃相應の調子なりとを











三月より十八日冬三月より十八日合七十二  
日と不良乃王子よきくせけ建いりまよしも  
清ふそくとしてまこいりりをあしたまへの  
めの目もりの目たのい日をもらて三年より  
一交乃国月を改くわりの土用七十二日よ  
うへてまのうせたまひ今建いあ良乃王子の  
清よろいひかきわあし此時他かうひとそ  
もんぢんもろせよ土用計うちよまひとつあ  
日をくだしたまふを子細めてとよりのうち  
よもまひ潤子のちうあなり又四季よ土用の  
潤子乃ちうあもび依なりきうこうこれ位代  
今よりんきうなり

五潤子きんもろ横此事右のよ乃ひとさ  
ゆひよてきんする時鼻へひく巻の黄鐘也  
えおもちへひく巻の平潤なり  
ひとさいよひくけの盤渉なり

耳へひくけの一越潤なりつひよ拍りあさの  
双潤なり大あめひ

わさまの潤子双潤也むりきりんあきを  
もちひつまは盤渉もあ様をまのわこまよ  
あをもちつるなり火る乃るをよ似くわとそ  
双潤よさこむとさう双潤の本姓也うるう  
ゆへようつていふの本をもつて出来まれを  
本姓の相應の潤子なり又いさく双潤のま乃



調子也まゝ四季のまゝめあまゝの家のもゝめ  
おひめてたき調子也

狂言の調子乃るヲオ一乃調子一大事ナリナリ  
まへ乃あらつりのてうゝとぞくひて相應  
しそつひつゝ中比よりちと調子をあきて  
おつりまゝおきめお時分よもとのてうゝは  
あをゝとむへし

まやうち乃あゝい竹の音あとのあひゝゝひ  
る成吉のあひゝゝひうやゝのたくひいりり  
まもくくてうゝたうまゝつひてまゝつゝまも  
あゝくとつあひゝゝひなりうゝあひの調子  
まゝり一調子さくつゝあひゝゝひ也あまの

うん乃あゝゝゝひ同あ

一うかまかんゝんは口松風うやゝのたゝひい  
調子たりきをきゝあなわまゝゝひのてうゝ  
ぢよんか横のたくひおぢ一是をもつて分別  
あゝゝ

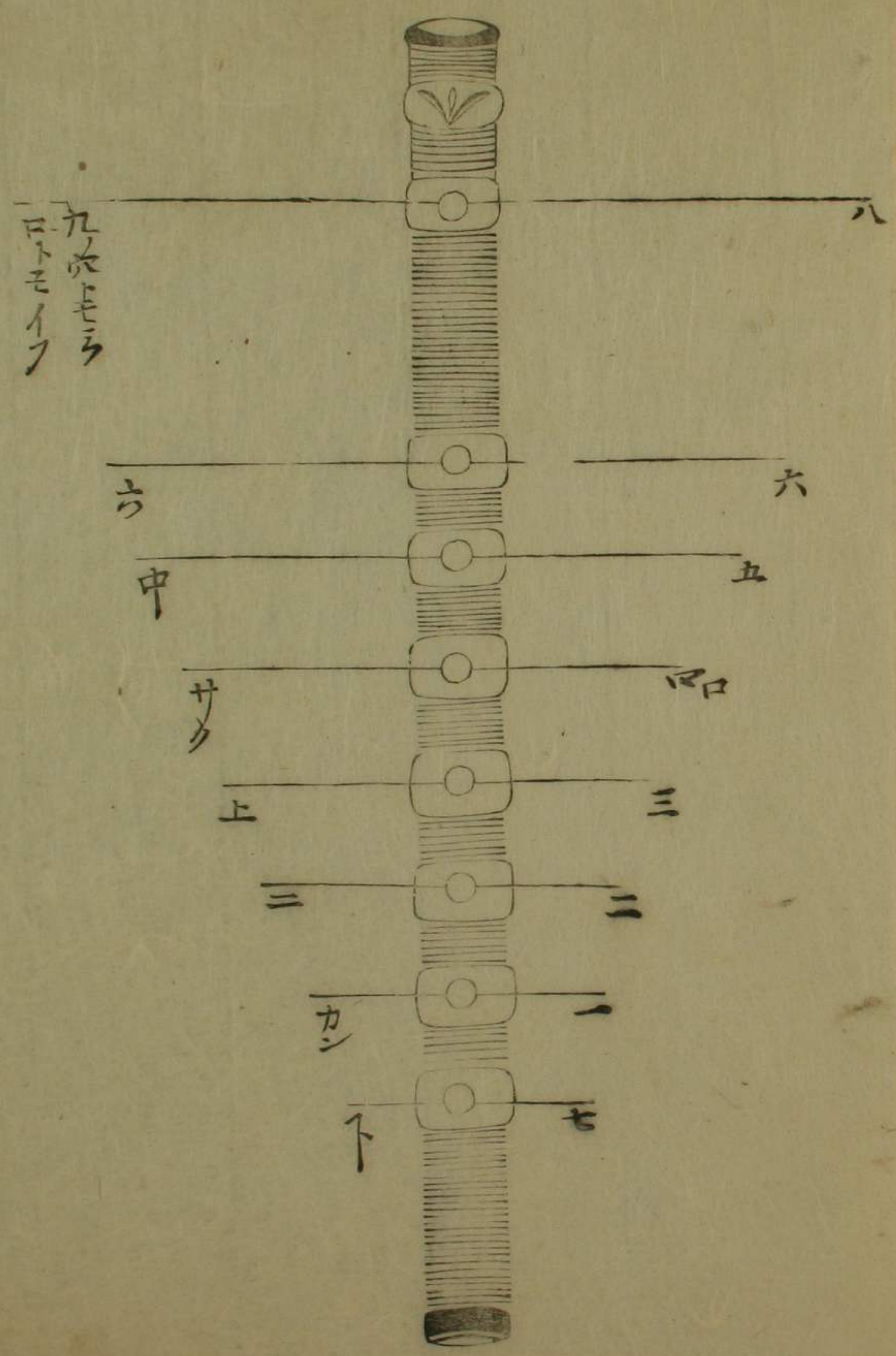
一西行様よあの采りき乃戸越ひゝきてうちへ  
入ゝゝとつゝとゝゝ狂言ゝあゝへ入ゝゝ  
さゝくゝとゝ調子めりゝい横花とゝ  
たまきまゝ又さゝくゝ志ゝゝくゝも横花と  
うゝつれまゝさゝくゝとつゝあときむりひの  
さゝゝゝをゝ乃調子とゝあひの位をひゝさゝ  
さゝとつゝあゝしはゝりけかんよう也か横乃



事あまのこころへーの川の流の流も渡りへー

和歌二

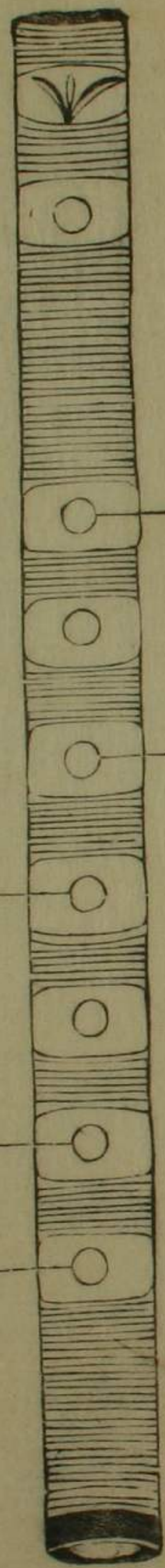
十一



和歌二

十一





フキ調

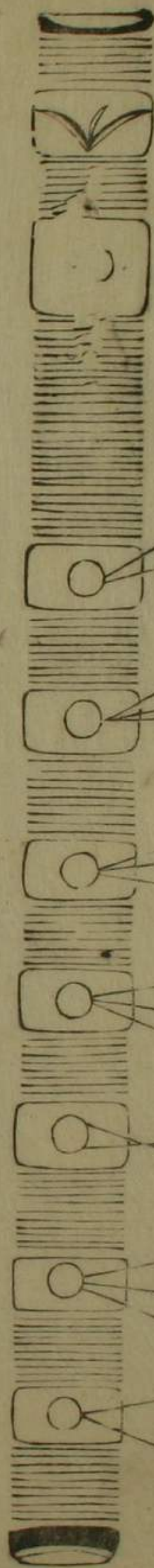
ミ調

シヤウモツ調

平調

平調

十四



上多

非三

盤三

釜三

黄多

息フ

双サ

下ゲ

勝セ

平言

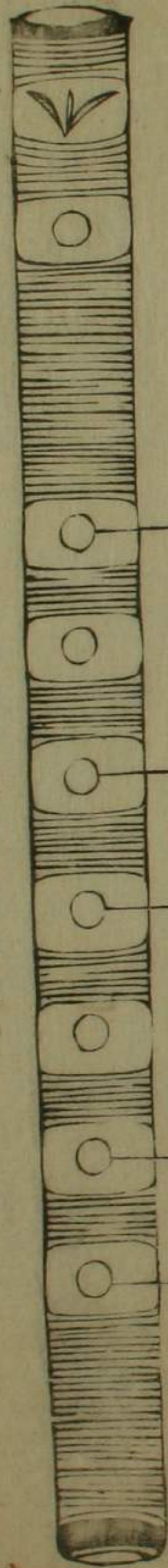
折多

扱多

三

三





フシタ調

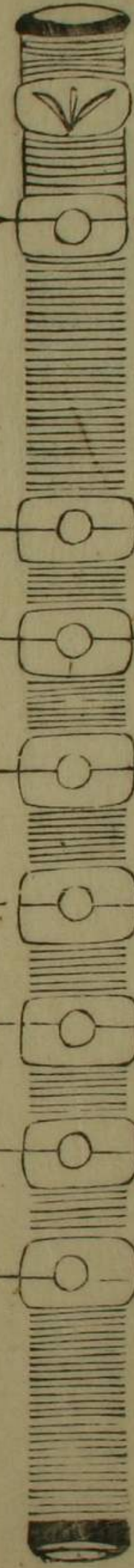
マ

セツセツ

長調

同

九ノ穴モラ  
ロトモイフ



八

六

五

四

三

二

一

七

ラ

中

サ

上

三

カ

下

九ノ穴モラ

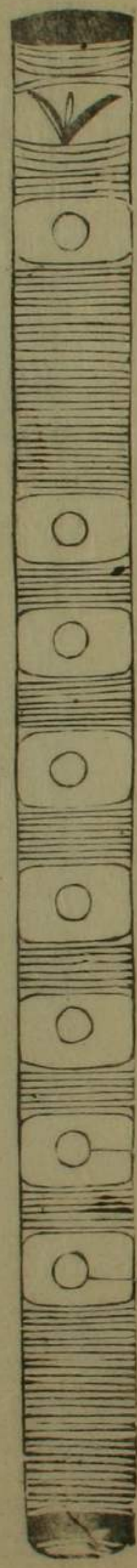




双洞

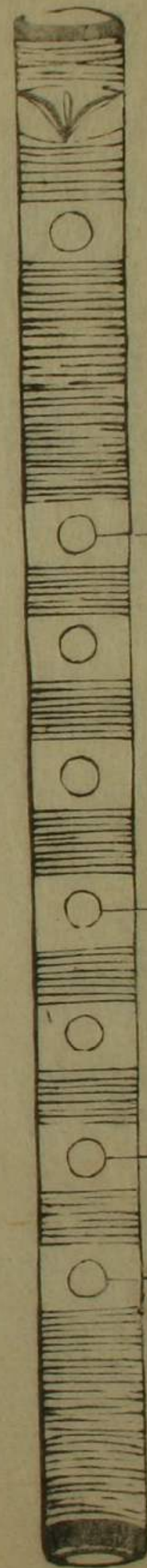
内

内



下魚

内



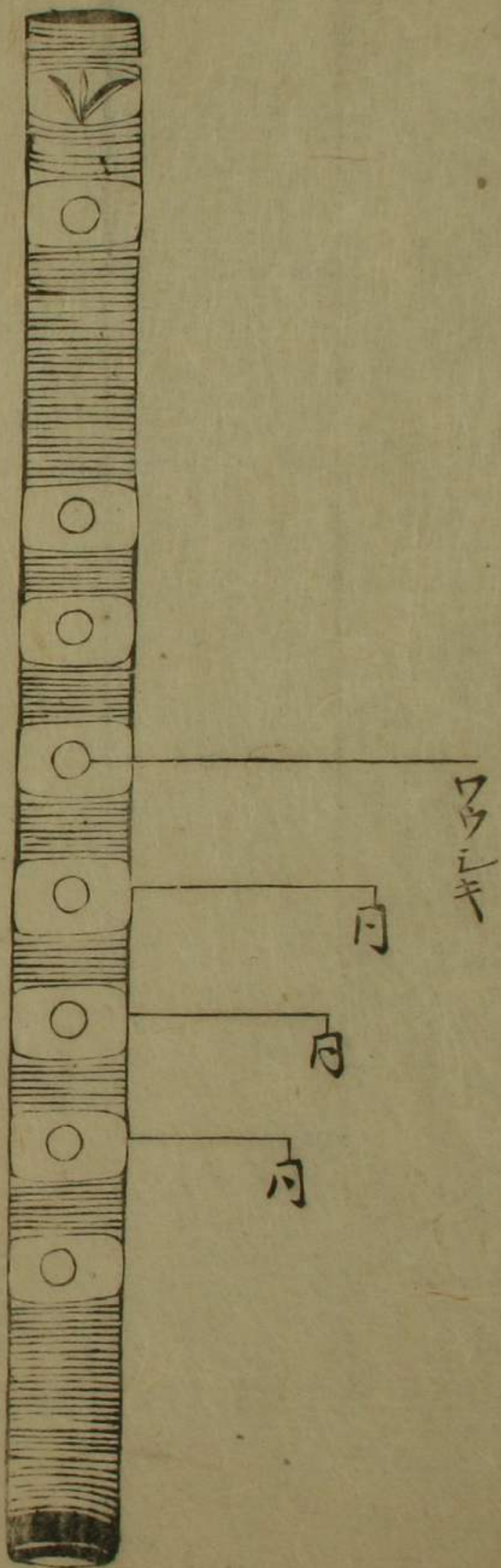
ニセツ

ニセツ

女キ

ニセツ





右ふゑの圖れかろくわく此し〜  
 十二洞子吹かてうつり音律分別ある〜  
 さりあう〜笛よかきわめきあてう〜ん  
 ゆき〜〜大〜の〜あま〜なりよ〜  
 口傳かんよ〜なり

一 侍あ乃ともや〜小座あ〜めくのをや〜  
 わ〜ま〜おとのを座〜此時双洞乃舞まは吹  
 っ〜いぬあ〜ひなり

一 わ〜ま〜乃笛ま〜く座付を吹〜や〜  
 座付と〜お供なり座付の及つ〜乃の〜は  
 ひ〜くわたまし〜の座付乃ま〜はひ〜ぬ  
 の なるり秘書なるあ〜ひなりひ〜く〜



家子あゝあひなりわかへはくくはたへし

一 彌子ハ双彌可然ハ盤渡もあのでうーあまハ  
すくくくともれあゝくハ本姓を本とゆちハ  
双彌也よ

一 わき乃さより大夫へううひうけうそ彌子乃  
事わうう急い内うとそ我彌子なうちやう  
きよせまーき也大夫乃めりうわをきくわを  
うれお應むよもー大夫乃彌子たあくわー  
らうくひろき庭北能ハ志こら可るあらも  
時よわきの彌子乃有うひ大夫よりうけとあ  
あゝお應の彌子うけとめてきそよき彌子よ  
あをまこ大夫へううひハ妻彌子をめうして

わこを奉あゝひなり中うこ急よりうけ  
大夫あゝいわきより大夫へ彌子ちうひら  
才一乃わきのち急うくうう

一 ううひよきやうきん乃あひううひ乃て  
をん急うのうううひ乃志うきん衰傷のこえ  
ううをよくうお應よあひううあ

一 時の彌子越きんとあやう乃奉ハ口哉あさき  
まあかのうきこまうわめてひとのうくまうぬ  
彌子うなりうんハそきうれう乃彌子ハ通る  
あなりそ彌子よやくうううひうくそあなり  
くを時の彌子産あお應北彌子とゆハ耳高  
あきこもき乃る也さりあううあきあなりとも



そ吹物乃初まてやうそ有乃こしく吟正れを  
吹物の洞子通るもの也

右洞子乃汝法九十一ヶ条也志るは  
有り物も天地此るまはてうーり  
も海くまへありを分ば藝の必要也  
洞子をうあへすて遠有り物あり  
うひ及ひわくううく十二洞子此  
さうここんきん警古肝要也



